

# 四国地区

四国地区代表  
**西村浩子**

副代表  
**和田浩二**

● 主な活動団体（普及委員会関係）

- ・ 高知大学
- ・ 松山東雲女子大学
- ・ 阿波ビブリオバトルサポーター

## 2015 年度活動報告書

氏名：西村 浩子

所属：松山東雲女子大学

連絡先：089-931-6211

2015 年度は、愛媛県では高校生ビブリオバトル 2915 愛媛県大会と大学瀬ビブリオバトル京都決戦～愛媛地区決戦～を主催しました。

① 全国高等学校ビブリオバトル 2015 愛媛県大会

2015 年 7 月 25 日（土）於：松山東雲女子大学・短期大学

後援：愛媛県教育委員会

12 校からの出場者で、以下の本が紹介されました。

ナンシー関『ナンシー関の記憶スケッチアカデミー』	
『森』（百年文庫 18）	
又吉直樹『第 2 図書係補佐』	
高橋こうじ『日本の大和言葉を美しく話す』	
サン・テグジュペリ『星の王子さま』	
瀬尾まいこ『幸福な食卓』	
夏海公司『なれる!SE 2 週間でわかる?SE 入門』	
穂村弘『短歌ください』	
森絵都『カラフル』	
重松清『その日のまえに』	
荻原規子『紫の結び』	
伊坂幸太郎『チルドレン』	

3 グループに分かれて予選を行い、その後優勝戦を行いました。チャンプに輝いたのは『幸福な食卓』でした。

観客数：約 50 名

大会後に交流会行い、出場した高校生・応援の高校生・引率の先生方・大学生スタッフが紹介本の情報交換など、楽しい時間を過ごしました。高校生は出場者同士でラインの交換を行うなど、友達の輪が広がったようでした。

## ②大学生ビブリオバトル～首都決戦～ 愛媛地区決戦

2015年11月28日(土) 於：松山東雲女子大学・短期大学

松山大学・松山東雲女子大学からの出場で、4名で行いました。

観客数 約30名

紹介された本は、以下の通り。

住野よる『君の隣臓をたべたい』
三島由紀夫『命売ります』
森下典子『いとしいたべもの』
七月隆文『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』

チャンプ本に輝いたのは、『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』でした。この本を紹介したのは、松山東雲女子大学2年の沖中美紅さんでした。

2015年度は参加大学も少なく、2016年度には愛媛県内の他大学の学生もさらに参加して地区決戦ができるよう、広報に努めていきたいと思ひます。

## 2015 活動報告書

氏名：佐々木 奈三江  
所属：徳島大学附属図書館  
連絡先：088-633-7414



私は、徳島大学附属図書館蔵本分館で司書をしています。2015年4月から医学系の図書館である蔵本分館に異動になり、業務でビブリオバトルに触れることはめっきり減ってしまいました。しかしながら、今年は徳島で高校生ビブリオバトルを大々的に行うことになり、そのサポートをさせていただくことができました。以下、簡単に今年の活動を報告します。

### ①「阿波ビブリオバトルサポーター」のサポーター

徳島大学の学生を中心とした団体「阿波ビブリオバトルサポーター」（以下阿波ビブリオ）のサポートをしています。2013年から、有志の団体として活動をはじめた阿波ビブリオですが、2014年には大学公認のサークルとなりました。今年度は、サークル活動2年目ということもあり、職員からのサポートを徐々に減らし、学生が自主的に活動する体制へと移行してきました。その結果、昨年度までのような大きなイベントを実施することはできなかったものの、学生同士のコミュニティで楽しむ形の小さなビブリオバトルを数回実施することができ、散発的なイベントを行うよりも活動が深化してきたように思われます。来年度以降の活動を楽しみにしています。

### ②全国大学ビブリオバトルの予選，地区決戦の主催

2013年、2014年に続き、阿波ビブリオが「全国大学ビブリオバトル 2015～首都決戦～」の四国Aブロックの予選および地区決戦を主催しました。また、今年度は、徳島大学附属図書館も地区予選を主催しました。ビブリオバトルの活動がやっと図書館内で認められたということで、感慨深いものがありました。

### ③高校生ビブリオバトルのサポート その1

徳島県では、文部科学省委託事業として、『子供の読書活動の推進「読書コミュニティ拠点形成支援」事業』を実施することとなり、そのプログラムの一つとしてビブリオバトルプレ講座が企画されました。これは、「ビブリオバトル高校生四国大会、高校生県大会に参加する高校生に対する講座で、実践指導も含むもの」として企画されたものです。この事業の担当者である徳島県教育委員会から、徳島大学教員に講師依頼があり、私を含め徳島大学附属図書館職員もサポートにあたることになりました。この講座は、2015年8月6日、8月19日の2回にわたって行われました。詳細は下記のとおりです。

#### 1. 内容

##### (1)8月6日について

①参加者：生徒46名 引率教員27名 計73名

##### ②プログラム

I.徳島大学教員によるビブリオバトルについての概要説明

II.大学生等によるビブリオバトルデモンストレーション

III.ビブリオバトルワークショップ

高校生によるビブリオバトル実践

##### (2)8月19日について

①参加者：生徒28名 引率教員16名 計44名

##### ②プログラム

高校生によるビブリオバトル実践

##### I. グループ予選

4～5名のグループを5つ作り、ビブリオバトルを実施

##### II.決勝

○紹介された本は次のとおり

- ・谷崎潤一郎「春琴抄」
- ・月村了衛「機龍警察自爆条項」★チャンプ本
- ・神山健治「東のエデン」
- ・山本渚「吉野北高校図書委員会」
- ・川上未映子「すべて真夜中の恋人たち」

## 2. サポート内容

徳島大学教員が概要説明を行った後、私ともう一人の図書館職員がディスカッションタイムの質問の促し方、大会運営についてのノウハウなど、実践的な部分について助言を行いました。この事業を企画されている先生方は事前にビブリオバトルの趣旨やその良さをしっかり理解されており、いずれのプレ講座もスムーズに実施することができました。高校などでビブリオバトルが導入された場合、ビブリオバトルの良さを損なう形で実施される例が散見されているため懸念していたのですが、徳島ではそういったことはなさそうで、安心しました。

## 3. 成果

全国高等学校ビブリオバトルでは、徳島県から、四国ブロック代表と徳島代表という2名を送り込むことができ、そのうちの1名が3位入賞となるという大きな成果がありました。また、3位入賞者と、発表した図書の著者との交流が生まれる、というエピソードもあったということです。高校の先生からは「ビブリオバトルが持つ、コミュニティを広げる力を感じた」との声がありました。

高校のホームページでも紹介されているので、ここでも紹介させていただきます。

<http://wakimachi-hs.tokushima-ec.ed.jp/jorexukf2-288/>

### ④高校生ビブリオバトルのサポート その2

その後、徳島県学校図書館協議会から、学校司書部会研究協議会で実施するビブリオバトル研修についてサポート依頼がありました。上記のビブリオバトルプレ講座は高校の教員と生徒が参加対象となっており、学校司書には十分周知されていないということで企画されたものです。この研修は2016年2月16日に実施され、私と阿波ビブリオの学生がサポートさせていただきました。詳細は下記のとおりです。

#### 1. 内容

(1)参加者：県下高校の学校司書 33名

(2)プログラム

- ①ビブリオバトル概要説明（30分）
- ②阿波ビブリオの学生によるビブリオバトル・デモンストレーション（40分）
- ③参加者によるミニビブリオバトル・ワークショップ（30分）

## 2. サポート内容

教育現場でビブリオバトルを導入するには、ビブリオバトルの良さ（自主的に本を読みたくなる気持ちの醸成、コミュニティ活性化等）を損なわないようにすることが肝心だと考えています。そこで今回の研修では、まずは大人がビブリオバトルを体験し、楽しさを体感していただくことを大きな目的としました。ただ、いきなり実践を行うのは心理的にハードルが高いことから、最初に概要を説明し、学生のビブリオバトルを観戦したのちに実践する、という構成にしました。

その結果、ミニビブリオバトルでは、楽しそうに本を紹介しあう様子がかがわれ、3分間では時間が足りないような状況となりました。また、学校司書の先生が紹介される本は大変バラエティに富んでおり、読みたくなるような本ばかりでした。

研修後、参加いただいた司書の方からは、「すごく楽しかった」「話を聞くだけより参加する、というのがよかった」との声をいただくことができました。

この研修の様子は、阿波ビブリオのブログにも掲載されているので、ここでも紹介させていただきます。

<http://awabiblio.blogspot.jp/2016/02/blog-post.html>

## 3. 成果

2日後、主催者の事務担当者の方から、「多数の学校司書が高校生向きの本を持参していたため、他校の本が気になる、選書の参考にという声があがり、ミニビブリオバトルで紹介された本のリストを作成・配布予定となりました」との報告を受けました。当日、私も本のリストが欲しいな、という話をしていたので大変うれしく感じたとともに、作業の速さに驚きました。

今回の研修で、各高校の学校司書の方にもビブリオバトル運営のノウハウはかなりご理解いただけたと思っています。また、ブックリストの作成など副次的な効果もあったことから、今後も継続的にサポートをしていきたいと思っています。

今年一年の活動を振り返ると、イベントを行って周知するという段階から一歩進んで、草の根的に浸透していく段階に進んだ(?)感じがします。今後もしわじわと、楽しみながら広げて行きたいと思っています。